

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家 1号館		
所在地	愛知県豊橋市高山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年 3月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター
所在地	愛知県名古屋市長区緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F
訪問調査日	平成22年12月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑の中で家庭的な生活を、の理念に基づき大規模施設や病院とは異なり、家庭的な雰囲気の中、周辺の森林に四季を感じながら、自らも畑にて作物を育て、収穫の喜びを味わい、生き物の飼育に携わり楽しみながら、それぞれの役割を持ち、生き甲斐の持てる第2の住まいを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人の経営する大型施設や様々な介護事業所が立ち並び、その地域内の一角にホームが立地している。介護サービス面や人事管理面での連携が図られており、充実したケア・サービスの提供を可能としている。  
ホームは周囲を緑に囲まれ、近隣に民家はない。地域との交流には大きなハンデとなっているが、運営推進会議には地域から婦人会メンバーや民生委員、自治会長、校区消防団などの出席者を集め、会議開催ごとに地域の理解や支援が得られる関係作りを推進してきた。  
職員は排泄の自立に向けて、きめ細やかな支援で取り組んでおり、機能向上や機能改善につながっている。排泄機能が改善されたことにより、プライドを取り戻した利用者もいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎週の朝礼、月1回の部会を通し、その都度事業所理念を再確認し、現在の問題点、今後の課題・成果を話し合い、理念を共有、実践につなげている。	「緑の中で家庭的な生活を」を理念に、自然に囲まれた環境の中でその人らしく暮らし続けられるように支援している。周りには民家もないが、家庭的な雰囲気配慮することを心がけている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と当事業所がお互いの行事への参加を呼びかけ、ボランティアを常時受け入れ、日常的に交流を図っている。	地域の婦人会と、運営推進会議や見学を通して積極的に関わりを進めている。地域の保育園の夕涼み会や小学校の児童参加による消防訓練など、行事参加による交流を毎年継続している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的な会合を開催する事で地域の方々の参加を求め、認知症への理解、支援方法を学んで頂く機会をより多く持てる様働きかけしている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催されている事で、ご家族・地域代表他関係各位の方々等、より多くの出席者のもと活発な意見交換が交わされ、今後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議の開催ごとに利用者家族や、地域代表者、婦人会等との活発な意見交換を重ね、地域の理解や支援が得られる関係づくりが出来ている。	今後は、目標達成計画を運営推進会議で報告し、出席者によるモニタリング機能を活用し、運営に反映させることが期待される。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村関係の方々との定期的訪問により、入居者様の日常を見たり直接お話しされ、職員の対応を見て頂きながらより良い協力関係構築に努めている。	包括支援センター職員が毎回運営推進会議に出席して現場の状況を理解し、防災などの課題を共有している。介護相談員が定期的に訪問して、利用者や職員と関わって実情を把握している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的講習会への全員参加により、具体的な禁止行為を学び、職員間での話し合いの中で拘束をしないケアに努めている。	身体拘束の研修で共有認識を図り、身体拘束をすることのないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各勉強会へ積極的に参加し、職員間でその成果を共有し、より良いケアを目指しお互いの質の向上を目指し、常に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的部会への開催などにより具体的事例を話し合い勉強する事でより理解を深めながら、より良い支援を目指し努力している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	すべて書面にて十分な説明の上納得頂いた上で署名・捺印をお願いしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族との信頼関係作りを第一に定期的交流の場を設け、質疑応答により、今後の運営に反映させている。	運営推進会議に毎回、利用者家族の出席があり、運営に関する意見交換に参加されている。家族アンケートにも、建設的な意見や要望が目立った。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1度のミーティング・月に1度の部会という機会において連絡・報告・意見交換の場を設け互いの介護の質の向上に努めている。	各フロアリーダーが職員の状況や意見を把握しており、管理者と情報を共有し、よりよいケアの実現を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常の会話をとおし個人を知り理解し、信頼関係の構築に努め職場環境の向上を図っている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を職員が平等に持ち実践しながらスキルアップに努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな講習会により多く出席し、職員とその情報を共有する事でより良いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安が多いため本人の希望を傾聴するように努め安心して暮らせるよう信頼関係を築いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家族の不安・要望等聞き、本人に困ったことがあれば家族と相談しながら信頼関係を築いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の生活歴をしっかりと聞き取りその上で本人・家族が真に何を望んでいるかを見極めご本人の希望する生活に少しでも近づける様努める。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として本人を敬い尊重し共に作業し楽しみながら信頼関係の構築に努めてゆく。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の機会を少しでも多く持ち常に本人を中心とした考え方で、ご家族との話し合いが持たれる様支援に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら本人の希望をなるべく叶えられる様、職員も協力しながら関係継続の支援に努めている。	利用者の昔の職場仲間の訪問などがあり、職員が「また顔を見せてあげてください」と声かけして、継続的な訪問を促す工夫をしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を理解した上で共同作業・レクリエーション・外出の機会などを通して少しずつ互いを理解して行ける様、間に職員が入り孤立する事のない様助け合い支え合える関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	系列施設もある事でこちらへの移設者は多く本人・家族との対面の機会もあり必要に応じて相談・支援に努める。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何げない会話の中から本人の真意を汲み取る努力、職員間で情報を共有し本人本位のケアに努める。	日頃の関わりの中で聞き取った本人の要望や意向を、詳細記録に記載している。この書きためた記録を、介護計画につなげていこうとする取り組みは見られない。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日頃よりご家族との関係作りに努め日常会話の中から少しずつ情報収集し、より良いケアに努める。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意志を尊重し声かけを工夫をしながら本人の持てる能力の引き出しに努める。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にご家族・職員・本人を含めたカンファレンスを開催し本人・家族の望む生活の介護計画を作成している。	家族や本人が参加するカンファレンスで意見、要望を聞き取っている。定期的な見直しや身体の状態変化による見直し実施例はあるが、利用者の思いの変化に対応した見直しは行われていない。	日々の関わりの中で聞き取った本人の思いや意向、職員が気づいた細かな状況変化などが記載された詳細記録の情報を共有し、ケアプランに反映させほしい。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護詳細記録に記入しカンファレンスなどで情報を共有し話し合い日々の介護に活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの特性を活かし本人の個々のニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが持てる力を把握し安全で楽しく生活できるように発揮できる場を提供し支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常生活などの情報を家族・かかりつけ医師に提供し連携し合い信頼関係をつくり適切な医療を受けられるように支援している。	利用者は家族希望の医療機関や利用開始前からのかかりつけ医へ継続的に受診しており、特に主治医の変更を勧めることはない。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NS・家族にバイタル測定等の情報を報告し適切な看護や、付きそいによる受診を受けられるように支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	毎日のバイタル測定や様子観察の情報は主治医に報告し健康状態を把握していただけるよう常々努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前に家族等と話し合いをし、主治医の意見や本人の希望を聞き、共に支援に取り組んでいる。	体調の変化をよく観察し、重度化に向けて家族と相談して対応している。家族には、事業所として出来る範囲内で最高のケアを行うことを説明している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に話し合いをし急変時の対応マニュアルを作成し確認を行っている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域の方と共に避難訓練に利用者と職員が参加し安全確保に努めている。	消防署の協力により避難訓練や消火器の使い方の訓練を実施し、地域住民の参加もある。運営推進会議でも、災害時を課題に取り上げて参加者と話し合っている。スプリンクラーは設置されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いや思いやりの言葉掛けを心がけ人生の先輩である事を意識し尊重して対応している。	「利用者は、敬うべき人生の先輩」との意識の下、失礼のないように、プライドを傷つけないように、言葉遣いにも十分に気を配っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様子を観察し本人の希望を声かけ等によって理解し自己決定できるように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで希望にそえるよう日常会話を通し理解して支援できるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望にそった支援ができる様、家族に相談してできる事は協力してやっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛りつけや片付け等出来る限り一緒に行い、利用者さんと職員が楽しく会話をしながら食事支援している。	職員はさりげなく利用者をサポートし、食卓がなごむ言葉かけを行っている。利用者はコップを流しに片付けたり、食器拭きを手伝ったりと、力量に合わせてできることを行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食カロリー計算された食事を摂取していただき1日数回にわけ水分補給している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々にあった援助で本人の出来る事は自分で、出来ない事は職員が介助しながら清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握してトイレでの排泄の回数を増やして行けるよう努める。	退院後、紙パンツで戻られた利用者へ、自立に向けて「オムツが濡れたら交換する」をチームで心がけてケアを実施し、布パンツに向上した方が2名ある。きめ細かいケアで支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状況に合わせて水分摂取をされたり漢方薬を用いたりして工夫しています。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	よるこんで入浴していただけるよう、又、本人の希望に可能な限り応えて行くよう努める。	入浴拒否の強い利用者へ、時間をずらして声かけすることで拒否なく入浴できた事例があり、時間に関係なく声かけするなどの支援を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者が休みたいと言われれば自由に居室で過ごしていただき、寝たいと言えば寝ていただくようにしています。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の副作用を見て、飲み物等に気をつけたり、職員一人一人が、薬を確認して誤薬防止に努めています。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物を干したり、たたんだり、お茶わん、お盆を拭いたり得意としている人に役割分担をしていただいています。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎に合わせて、お花を見に行ったり、外食したり、又、ご家族の方が外食につれて行かれたりしています。	コスモス畑の見学や豊川(佐奈川)へのドライブの途中でおやつを買うなど、外出や外食に出かけることが増えた。車椅子の利用者は、1階と2階の連携と協力体制で散歩や外出できるように工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した時など本人の認知度により、買物をしていただいたりしています。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月に年賀状を書いたり、本人の希望する時は、電話でお話したりしていただいています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、季節の物を飾ったり、利用者の作品を飾ったりして目で楽しまれたり、よるこんでいただいたりしながら気持ち良く過ごしていただくよう努めています。	過ごしやすい広さと明るさの居間は、ゆったりと居心地良く、ホールは利用者と一緒に作った飾り付けが季節感を感じさせる。あちこちに写真や利用者の小作品を飾り、利用者が楽しめるように工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファー等に座って利用者同士お話しを楽しまれたり、笑ったりしながらテレビをみたりして穏やかに過ごされています。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物等を活して不安のないよう安心して過ごしていただけるよう工夫しています。	これまでの生活を継続してもらうため、家族にも協力を依頼して馴染みの品を集めている。籐の椅子や衣装ケースなど、馴染みの家具を持ち込んだ居室は生活感にあふれている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室のそばに写真を貼ったりトイレ等には大きく名札を貼ったりして自立出来るよう促している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (2号館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家 2号館		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町松田55番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年 3月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成22年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念として、みどりの中での家庭的な生活、自宅でもなく大規模な施設や病院でもない家庭的な環境の中で、ゆったりとした生活、そしてなんらかの役割(畑での野菜の収穫等の喜び)を持ちながら楽しく暮らせて行ける「第二の住まい」を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域に利用者とは出かけ、自然を鑑賞し地域の方とふれあい、会話を楽しみ季節感を味わっている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>ふれあいコンサートの演奏を地域の方に出席していただき、曲を聞いたり唄ったりし、ボランティアの方々と交流を深めています。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>食事に外出をし、食事を提供して下さる店や、敬老会、ふれあいコンサートなどで、地域の方々にも参加していただいています。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者様の御家族、地域住民、婦人会の方々の出席により、今現在の利用者状況、各行事の写真を観てもらったりと、話し合いの場を設けアドバイスをもらったり、サービス向上に努めている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>担当者の方と話をしたり、職員とケアについて色々話し、見直し、コミュニケーションを図って、運動会にも積極的に出席していただき、指導をいただきました。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>パターンリズムなどについて、週一回以上ミーティングをし、人権保障の重要性などを含む、事例で話し合いを実施しています。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>利用者の精神心理的な出来事や、職員の対応など、各時間ごと引き継ぎ、ノートに記入し、共有している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎週、自立支援についての、理念を基に、担当者会議をし、次週進捗を報告している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護詳細記録の説明や、利用者の家族の面会時に十分な説明をしています。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者を含む、現状の問題点がないが、共有できるように、来目細い打ち合わせを部会で話し合っている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会や週一度朝礼を実施しています。また個別ミーティングをし、反映させています。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士の昼食時のコミュニケーションや職場での連絡と全員で、EQを高める活動をしています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の指導職員を決めサポートしていますが、DVDの教育制度や市が主催される講演なども、職員を交替で出席させています。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ADLなどの難病介護や私達の介護医療について他社と意見交換をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入眠されるまでの居室での閉じこもりがないように、声掛けやレクリエーションをし、利用者同士の会話にも参加していただくよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と利用者の中で、家族が困っている事を聞き職員全員が同じケアの統一に、毎日詳細記録にて連絡している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族にとり何が限界を感じたかや、心のケア含む内容を打合せ、サービスをします。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意志疎通ができない人は、本人の立場にたち、過去をよく受け入れ、声掛けや笑顔で接しています。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来ていただく家族へ本人の変わりなりに、日常の家族への思いを代弁しています。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との写真や手紙を見たり、本人の好きな話題を聞き、語り合いをしています。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各時間の食事時の会話や、レクリエーションなど職員が先頭になり、利用者同士の共通する話題をみつけ、声掛けをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された際には、病院へ面会へ行き、状況を把握し、その時々のお話を大切に、家族・本人へ安心感を与えられるよう支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何げない言葉の中から本人の真意を汲みとる努力、職員同士で情報を共有し、本人本位のケアに努める。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族と面接し、話の中から生活歴・病歴、大切な出来事や物、人、好みや習慣などを確認し、カルテを作成し、皆に読んでもらう、本人の記憶に残る過去の経験を暮らしの中にかかしていく。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々本人の観察、見守りによって気づいたことを職員間にて情報交換したり、詳細に記録したり、カンファレンスにて話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスや担当者会議を行い、本人の細かい状態把握につとめ、変化があった時はその変化にあったモニタリングやケアプランをたてている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日変化ある本人の状態や気持ちに沿って、きめ細かな対応を行っていく中で職員間で記録、ケアでの情報交換し、最低3カ月に1回程度、状態に変化がなくても見直しを実施している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの生活環境を良く観察しその時々ニーズに答え、それぞれのニーズにあったサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の人達との関わりを持ち、幼稚園児や児童達と運動会、防火訓練等を通し交流を深め、また夏祭りなども招待し合い生きがいを引き出すように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の都合により受診できない場合は、NS他職員が付き添い、バイタルチェック表を持参し体調管理に努めています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートや詳細記録などから、情報を密にし、受診や看護を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族様と連絡をとり、医師との話し合いのもと入院してもらう。病院側にはサマリーを提出し、情報を提供し早期に退院できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その時その時の利用者の状況を管理者へ、報告連絡相談しその都度指示を頂き、できるだけ細かくわかりやすい説明のもと安心感をもって頂いています。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急事態が発生した際、組織的な対応や管理がスムーズになされるための実現可能な対応策マニュアルが整備され職員が内容や流れを把握し、いざという時適切な行動がとれるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練実施のもと職員間で話し合い、マニュアルを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自己主張の強い方、プライドの高い方などと性格色々である為、その都度個々に合った温かい言葉、優しい仕草で対応しています。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様の話に傾聴し、表情を観察する事により、意思向上できるように支援しています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩へ行きたい方、レクリエーションを楽しまれる方、休息したい方などと、一日の生活の流れの中で気分転換図れるような個別ケアを大切にしています。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎週木曜日に、出張で床屋さんが来てくれるので、散髪するという楽しみ・おしゃれ感をもって頂けるよう支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は、入居者様、職員が同じテーブルで楽しくコミュニケーションを図り食事しています。食事の食べ方や食べこぼし等に対するサポートもさりげなく行っている。食後の食器拭きもお手伝いしていただいています。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食カロリー計算されており、食事後のお茶、入浴後のお茶、おやつ時のお茶を飲む事で1日に必要な水分をとっています。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れ臭いが生じないよう、感染症にもならないように、毎食後個々に歯ブラシとイソジンでのうがいをし、細菌予防と清潔保持のための支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導にて、排泄パターンを把握し、習慣づける事で自立に向けた支援を行っている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行運動、水分摂取を行いながら排便チェックを行い、便秘時は腹部マッサージ、適宜下剤内服にて対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	なるべく本人の希望を聞き入れ対応できる様に努める。入浴拒否の方へは20分おきに声かけをし入居者が入浴をされる様に支援しています。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分のペースで一日を楽しく過ごせれる様に支援している。歩行運動を実施したり、体操をし利用者様の心のケアの一環として全員で歌を唄って楽しんでいただいております。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤管理表があり職員がいつでも確認出来る様にする事で情報を共有しチェック体制を整える事で誤薬防止に努め個々の状態観に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の情報収集することで、個別ケアプランの作成により張りのある生活になるように支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	臨機応変な対応は取れる様体制作りに努め、地域の人々、家族の協力を得ながら、定期的に外出する計画も実行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	大金の管理や日常の出納が難しいですが、利用者様が金銭管理ができない場合は、その代替方法を家族と相談の上、定めており家族に定期的にその出納を明らかにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人からの外出、外泊希望の電話がある時は、ご本人とも電話交代し会話をする時間を設けプライバシーに配慮し、会話する喜びや楽しい時間を大切にしています。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活を送る上で共同空間が馴染みの場所、安心感ある場所になるよう、家庭的な雰囲気有し、物品や装飾、季節感ある掲示物の工夫もしています。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観る人、テーブルでは思い思いの事をする人、職員は利用者の言動を注意深く観察しながら常に気配りし、話し相手するなど対応している。利用者のペースの中で共に過ごす観点に立っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのテーブルや置き物、写真など持ち込まれ自分の居室だという認識をもち、また気持ちの平穏にもなり、安心して過ごせる場所になっています。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が一目でわかるように大きく表示したり、自分の居室がわかるように名前を書いて したりと配慮し工夫しています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果 (3号館)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372000980		
法人名	医療法人社団誠淳会		
事業所名	グループホーム青葉の家 3号館		
所在地	愛知県豊橋市嵩山町字松田55番地		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町村受理日	平成23年 3月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/informationPublic.do?JCD=2372000980&amp;SCD=320</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成22年12月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「緑の中での家庭的な生活をする」を理念としている。四季を通じ自然に恵まれた環境の中での野外活動にて、自然の草花、実などの採取をしたり、畑・プランターでの野菜栽培の収穫を楽しみ、小鳥のさえずりの中で第二の生活の場として過ごして頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>地域の行事に参加したり四季おりおりを感じて頂ける様、車にて出掛けたりしている。</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事がある時は参加させて頂き交流しています。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>やまびこ新聞を発行し、御家族様や地域の方々の人に読んで頂いている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を開き、御家族の方々や地域の方に来席して頂き話し合いを持っている。</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>相談員の方にも定期的に来館して頂き利用者様とのコミュニケーションを取りながら理解して頂いている。</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束をすることなく毎日のケアに取り組んでいる。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設部会、カンファレンスを定期的に関き、職員等で話し合いを持ち学習し、努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各自、講習会に参加し知識を得、職員同士の意見交換を行い活用できる様支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、利用者様ご家族に十分説明し納得して頂く様にしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	24時間体制で電話を受けつけご意見箱も設置し利用者様、ご家族様の意見要望を取り入れている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会やカンファレンスで意見を出し合う機会を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が協力し、信頼関係を深め向上心を持ち、職場につく様努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の向上のために講習会、部会を行い研修の機会を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と意見交換を行い情報を得てサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えに耳を傾け、御家族様の訪問時にも何でも言って頂ける様な雰囲気作りをしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の方とは常に信頼関係を持ち、コミュニケーションを密にしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援に重点をおき、本人や御家族によく確認し、対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活においていっしょに軽作業をして頂き会話をしながらなごやかに生活を送っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の立場に常に立ち、家族と職員の思いを結び合い協力し合う様にしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友達関係を大切に、いつでも自由にできる様に配慮している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	状態、感情が常に変わる為、注意深く見守り職員が間に入り良い関係になる様支援していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても家族とのつながりを作り未長く支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方、希望意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし、一人ひとりの生活や馴染みの暮らし方、生活環境サービスの利用把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを一日二～三回、血圧・体温等を測っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に二～三回のカンファレンスを行い、より良く暮らせるようつとめている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用や詳細記録を記入し、バイタルチェックや食事量、排便を把握している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族や本人の要望を取り入れ状況に合ったサービスが行えるよう、その都度柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の幼稚園や教育機関などと交流を持ち、季節の行事に参加する事で地域社会と接点を持つようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前には家族希望のかかりつけ医に診断書をもってきている。受診も家族希望の病院へいってもらっている。希望があればかかりつけ医院の紹介もしている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートや詳細記録などから情報を密にして受診・看護を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族とも連絡を取り、医師との話し合いのもと入院する。サマリーなど本人の情報を病院へ連絡し早期退院となるように心がけている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として出来る範囲内で最大のケアを行う説明を行っている。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に対応がスムーズに行えるようマニュアルが整備され適切な行動がとれるよう努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的実施している。地域の方も一緒に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼のないよう言葉使いに注意し、記録・個人情報の保護に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に声掛けをしながら本人の思いや希望を聞き自己決定出来るよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせ柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好まれる身だしなみを考え1日の行動を楽しく過ごせる様支援していく。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員利用者様と食を楽しむと毎日の生活につながりお互いの気持ちがわかり合える。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に合った食事、栄養のバランスを日々考え必要に応じ食べ易く刻んだり水分も補給する。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄やうがい薬を使い常に本人様に合った清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様の立場に立ち、それぞれに合った支援を心掛ける。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に健康管理に注意を払い運動・外気浴などを勧め、管理していく。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様に合った無理のない体勢で気分良く入浴してもらう様に心掛ける。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に入居者様の事を考えやすらぎ・安心・安全を心掛け清潔面にも注意を払っていく。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの服薬状況を理解し、常によく確認を行い状態観察をする事を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者(本人)の希望を元にレクリエーションや役割を生活の中に取り入れ活気ある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿って入居者様(本人)に合った無理のない外出を考慮し、家族や地域の人とのふれ合いを大切に出来るよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者様の希望時には、必要な物を購入できるように支援している。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>要望により電話を掛けたり手紙をポストに出したり外部との交流を支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>快適にホールで過ごせるよう四季おりおりの季節感を感じて頂けるよう壁面のかざりつけを工夫している。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>レクリエーション等により塗り絵やパズルを共にやる事で楽しく過ごして頂いている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時家族と話し合い、利用者の必要な物を可能な範囲内で置き、生活の不安不穏が無いようにしている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個人の生活を尊重している。入居者の得意な事を各自発揮出来る様、工夫し支援している。</p>		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	車椅子の方や独歩不可能な方も増えて来ており介助が必要となっている	ストレスをためず気分転換が図れるよう、全員外気浴へ誘う。各行事、ドライブ、外食、買物を楽しむ。	全員で出掛けられない場合は、一人～二人づつでも日時等決めた上で職員体制のもと入居者の方の意見を尊重し実施していく	6ヶ月
2	64	地域的にも中心地より離れている為、限られた人達だけになる傾向がある	いつでも面会に来られる様にご家族地域の方々に呼び掛けをしていく	継続的な訪問をしていただく為、行事などに参加していただき、信頼関係を築く	6ヶ月
3	56	会話が出来ない方、意思の疎通が出来ない方、自由に動けない方、そんな方々の思いをどう汲み取っていくか	毎日の関わりの中で、ちょっとした表情の変化を見ながら、常に声かけし関わりを多く持ちながら本人の思いを汲み取る努力をしていく	ご家族から元気な頃の生活の様子、好き嫌いを伺いながら日々の会話に取り入れ精神的なケアを重視しケアプラン作りに努める	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。